

『ピアサポートの充実を目指して』

藤枝市立広幡小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	1年生を迎える会 遠足(1, 6年 ペア遠足)	仲間作りステージ	・「わが校のピア・サポート活動(取り組みへの共通理解)【提言3】
5月	運動会	☆人間関係づくり プログラム(出会い) ○調査・分析(1回目)	
6月		挑戦ステージ①	
7月		☆人間関係づくり プログラム(聴き方)	
8月		挑戦ステージ②	
9月	自然教室(5年) 虫採り探検(1, 2年)	○調査・分析(2回目)	【通年】 友だちのよさ、自分のよさを見つけ、認め合う活動の推進をする。 →ピア・サポートの視点から子どもたちの様子、行事などの振り返りをする。 (帰りの会の「いいこと見つけ」、ステージごとの振り返りなど) 教師が日々の生活の中でピア・サポートの具体例を示す。
10月	陸上選手を励ます会 藤枝市陸上大会(6年) 親善音楽会励ます会 親善音楽会(4年) 修学旅行(6年) 校内音楽会	かがやきステージ ☆人間関係づくり プログラム (自己表現)	
11月	友達の良さを 見つけ認め合おう。 (4, 5, 6年)	☆人間関係づくりプログラム (自分の気持ちへの対処・対応)	
12月			
1月	福祉学習、幼小中連携 地域との連携	飛躍ステージ ○調査・分析(3回目)	教育課程編成会議 (活動の振り返り)
2月	愛校活動週間 感謝の手紙 はばたきの会		
3月	卒業式		

ピア活動・遊び(一・六年、二・四年、三・五年)【提言1】

毎日の授業(あたたかな聴き方、心をこめた話し方)【提言1】

委員会活動(児童会「ピアサポートニュース」)【提言1、6、7】

クラブ活動
【提言1】

2 本校のピア・サポート活動の紹介

I 特別活動を中心とした全校での取り組み

<提言 1, 2, 3, 5, 6, 7>

A 委員会活動

◇児童会

児童会ではピアサポートの充実を目指し、下記の活動を主に行った。

- ・ピアサポートのめあての紹介
- ・ピアサポート充実の為の児童会による劇
- ・「ピアサポートニュース」の紹介

<ピアサポートのめあての紹介>

本校は年間で4つのステージに分かれている。そのスタートにあたり、全校でステージのめあてを確認するステージ式があり、その際に児童会からの時間を設けて頂いた。そして、ステージごとのピアサポートのめあての紹介を行った。ステージごとにめあてを伝えることで、どのようなことを意識してピアサポートに取り組んだら良いのか子どもも職員も全校で共通理解することができた。

このめあては、教育計画のステージのめあてと関連させている。

本校の最終ステージである飛躍ステージのステージめあては「自己や集団の成長を自覚し、関わりのあった人に感謝するとともに次の出会いに向かう気持ちをもつ」である。その為、ピアサポートのめあては「ピアサポートでありがとうを伝えよう」と設定した。本校の教育計画に表されているステージごとの目指す子どもの姿とピアサポートを行う子どもの理想の姿とを関わりをもたせることで、学校教育目標や重点目標に沿った姿に向かって指導を行うことができた。

<ピアサポート充実の為の児童会による劇>

ステージの初めに設定されているステージ式では、児童会からステージごとのめあてを紹介した後に、そのめあてが達成されている具体的な姿とはどのようなものなのかということ劇で伝えた。例えば、年間で2つめの挑戦ステージ式では、「力を合わせて、ピアサポートを広めよう」というめあてを紹介した。そしてその後に、ピアサポートをどう全校で紹介するのかということ伝える劇をした。

本校のオリジナルのキャラクターであるピアちゃんところちゃんも登場させながら、1年生にもわかりやすく表現した。そして、最後には児童会メンバーのクラスでのピアサポート実践例を紹介し、各クラスでピアサポートをどのように進めていくのか話し合っていて欲しいということ呼びかけた。この劇を通し、ピアサポートとはどのようなものか皆で再確認することができ、自分が見つけたピアサポートを全校にどんどん広めていこうという意識を高めることができた。

また、年間で4つめのステージにあたる飛躍ステージのステージ式では、「ピアサポートでありがとうを伝えよう」というめあてを紹介した後に、その具体的な姿を劇で紹介した。登校中にお世話になっている見守りボランティアの皆さんや、読み聞かせボランティアの方々に感謝の気持ちを伝える場面を表現した。この劇を見て、低学年の子ども達も年間の最終ステージでは、日頃の感謝の気持ちを言葉や態度で表現していこうという意識をもつことができていた。

<「ピアサポートニュース」の紹介>

子ども達が、各自見つけたピアサポートを、「ピアサポートニュース」として校内に設置してあるポストに投函し、それをお昼の放送で児童会より紹介した。この活動により、他の学年や学級ではどのようなピアサポート活動が行われているのか知ることができた。また、低学年や中学年の子供達も、高学年の行っているピアサポートを知ること、「そういうこともピアサポートなんだ。」「ぼくもやってみよう」という気持ちをもつことができ、ピアサポート活動の幅が広がった。

また、自分の行ったピアサポートを全校で紹介された子ども達は、大変嬉しそうな様子であった。自分の行いに自信をもち、次なる活動への意欲をもつことができた。

B 学級活動

◇ピアサポートについて考える学級活動

全校で、学級活動の時間を利用して、各クラスのピアサポートについて振り返った。自分たちのクラスのピアサポート活動の成果や課題を話し合う時間をとったことで、今まで積み重ねてきたピアサポート活動によって自

分たちのクラスがよくなっていることに気づき自信をもつことができた。また課題を出し合ったことで、今後どのようなことを意識して活動をしていけばよいのかクラスで確認することができた。そして、その後各クラスの成果と課題を代表委員会を出し合い、それについて各クラスの学級委員同士や児童会役員で話し合いを行った。各クラスのピアサポートの成果と課題を把握できたことで、次のようなキャンペーンを行えば全校の活動がよりよいものになるのか考えることができた。

C 異学年・地域交流

◇1年生を迎える会

1年生を迎える会では、1年生にペアの6年生が王冠をプレゼントした。また、全校のみんなで1年生を交えたゲームを行った。ゲームでは、どの子どもも1年生に優しく接していた。この会を通して、全校の皆からの歓迎の気持ちや、広幡小に早く慣れてもらうために自分たちにできることは1年生にしてあげたいという気持ちを全学年がもつことができた。また、1年生も広幡小の一員になることへの安心感を抱くことができた。

◇幼稚園・保育園交流会（1年生）

来年度入学する園児を本校に迎えて交流会を行った。音楽会で演奏した曲を披露して園児に聞かせたり、生活科の授業で作成したおもちゃで一緒に遊んだりした。また、1年生が園児を連れて校内を紹介して回る学校探検も行った。この活動を通して、1年生は自分が年上だから園児に親切に接しようという温かな気持ちをもつことができた。また、自分たちが新2年生になった時には新1年生のお手本として行動しなければならないという責任感も芽生えた。

II 授業における取り組み<提言 1, 3, 5>

本校の研修テーマは「かかわりながら伸びる子を目指す授業」である。その為、どのクラスでも授業中の友達との交流を大切にしてきた。特に、授業中の「相談」の時間をしっかりと確保し、子ども達が学習問題に対して互いの意見を出し合ったり疑問点について教えあったりすることが多く行われた。また、「心をこめた話し方」「あたたかな聴き方」も意識して教員が指導に当たった。これらのこ

とを通して、授業の中でも友達同士で互いを思いやる姿が多く見られた。

3 本年度の成果と課題

(成果)

・本年度は、ピアサポート活動を児童会が担当し、校内のステージ式ごとに児童会役員からピアサポートを充実させる為のめあてを紹介したり、それを具体化した劇を行ったりした。このことにより、全校でその時期にはどのようにピアサポートに取り組んでいけば良いのか確認することができ、意識が高まった。また、劇やめあては、低学年の子どもにもわかりやすいものにしたことで、「私もやってみよう。」という思いを全員がもつことができた。

・クラスごとにピアサポートを振り返る時間を設けたことにより、自分たちのクラスの活動を見直し、更によりものにするためにはどうしたらよいのか考えることができた。そして、クラスごとの成果と課題を代表委員会を出し合ったことで、学校全体のピアサポート活動の方向性を考えることができ、次のキャンペーン活動に繋がった。

・普段から「それってピアサポートだね。」という言葉が職員や子ども達からよく聞かれ、常にピアサポートを意識している様子が多く見られた。児童会がピアサポートキャンペーンをしている期間だけではなく、年間を通して常に学校全体でピアサポート活動への意欲をもち、取り組むことができていた。

(課題)

・職員の研修を年度初めだけではなく、年間を通して繰り返し行えると更に良い。他学級や他学年の活動の様子がわかり、それを各自のクラス活動に活かすことができると考える。
・今までの経験を元に、「更に質の高いピアサポート」とはどのようなものか考え、活動を推進していく必要がある。

4 来年度に向けて

本校では、今までの経験からピアサポート活動が定着し、多くの子ども達が学校生活の中で他者を思いやる気持ちをもつようになってきた。今後は、より質の高いピアサポート活動の実践に取り組んでいきたい。